

令和6年度事業報告

1 総括

本格的にコロナ禍以前の日常生活を取り戻し、人と人がつながり社会・経済活動も目まぐるしくなってきました。うるま市社協においても行政や地域・企業と連携し法人運営・受託事業をとおして地域福祉の推進を強化する中、経済的困窮世帯の生活再建の課題をはじめ、少子高齢化等、家族形態の変容に伴う子どもの不登校・引きこもり問題、独居高齢者の増加など社会的孤立の課題が顕在化していることから、移動支援や地域サロン、支えあい委員会の推進など住民主体の見守り支援体制づくりや住民同士のつながりづくり（社会参加促進）、生活再建が困難な方々への他機関協働での相談支援活動に取り組んできました。

うるま市では、地域共生社会の実現の具現化に向けて創設された「重層的支援体制整備事業」の移行準備事業が2年目を迎え、本会においても「第四次うるま市地域福祉計画」及び「第4次うるま市地域福祉活動計画」を基本としながら、市と協働し、包括的支援のための住民の福祉意識の醸成と支え合いの仕組みづくり、各地域での「支え合い委員会」の設置、関係機関・企業等あらゆる主体との連携協働による総合相談体制の強化、支援ネットワークの構築など「新たなつながりの場」や「新たな取組みの創設」、居場所づくりを推進しました。併せて、社会的課題の一つである市民の権利擁護体制の強化に向け「法人後見推進検討委員会」を設置・検討しながら、法人後見サポーターとして社会福祉法人に参画いただく社会福祉法人連携による法人後見体制が整備することができました。3月に起産石川、緑和会の2法人との派遣協力協定を締結し、いよいよ令和7年度から「法人後見受任事業」を開始する運びとなりました。

また、本会の経営方針を示した「中期経営計画」を基に「人事評価」が始まり、不十分ながらも職員の育成・職員の意識向上と能力開発に向けた法人基盤の強化に努めました。

本会事業推進に必要な財源確保では、やなえもんさんをはじめとする市民有志、団体のご協力もいただきながら初の試みとなるチャリティライブ「ウルマニフェス」を実施し、未来の福祉人材の育成「URUMAキッズサマースクール」に必要な資金造成に取り組みました。地域福祉活動を市民に広く周知を図っていくことは、今後ともたいへん重要と考えており、これまでの紙媒体での情報発信に加え、ホームページやインスタグラム等のデジタル媒体を活用し広報活動の充実を図りました。

2 事業報告

1. 法人運営事業

財源：市補助金・社協会費・寄附金・雑収入等

収入額	232,625,048円	支出額	220,539,327円	差異	12,085,721円
(1) 運営補助金事業		財源：市補助金			
目的 内容	決算内訳				
	収入額	123,919,000円	支出額	123,919,000円	差異 0円
	社会福祉事業を効果的に推進するため、総務課・地域福祉課・在宅福祉課の3課を配置し、19名(内1名は生活福祉資金貸付事務事業、1人は障害者相談支援事業にて雇用)の正規職員が組織運営に関する事項及び自主財源の確保を図りつつ、自主事業及び各種受託事業の展開をとおして地域福祉を推進します。				
(2) 法人運営事業 (自主事業)		財源：社協会費・寄附金・雑収入等			
目的 内容	決算内訳				
	収入額	108,706,048円	支出額	96,620,327円	差異 12,085,721円
	組織のガバナンス強化、事業の透明性の向上や財務規律の強化など、社会福祉法人制度改革において求められている諸課題に対して、具体的かつ必要な対応を図り、本会の役割及び活動に対する地域住民の理解を促進します。社協の財務状況を職員一人ひとりが問題として認識し、法人全体で財政難を改善する戦略が必要です。 自主財源の確保として、財務状況を情報共有し、各種経費の節減や社協会費等を含めた新たな自主財源確保の取り組みについて、中期経営計画の下、役職員の協力体制による新たな試みを展開し、法人の健全経営に努めます。				
年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				

評価	事業（項目）						
4	1 社協会員加入促進（戸別会員・賛助会員・団体会員・特別会員） 今年度は、コロナ禍の影響等で閉店した事業所もあり、賛助会員と特別会員の依頼先の見直し整理を行い、目標にわずか届かない実績でした。次年度は、新規開拓も含め社協全役職員総出で会員募集活動を展開に努めます。						
	令和6年度実績	戸別会員	賛助会員	団体会員	特別会員	合計	
		11,982世帯	412人	53団体	109企業	達成率79.7%	
	5,991,000円	410,664円	275,000円	818,000円	7,494,664円		
5	2 資金造成に係る関係団体等との連携 1. 具志川なつメロ友の会(338,463円)、うるま歌謡友の会(900,000円)、ちよこ歌謡教室実行委員会(250,000円)への協力ができた。 ①実績合計1,488,463円 2. チャリティライブ「ウルマニフェス」を実施し、未来の福祉人材の育成を目的とした福祉教育事業「URUMAキッズサマースクール」に必要な資金造成に取り組んだ。						
4	3 寄附金募集の推進（寄附プログラムの作成等） 財政の厳しい中で、社協だより及びホームページ、Facebook等の見直しを行い、積極的に寄附募集を展開した。 ②寄附金実績額7,225,805円 ※令和6年度寄附金実績総額(①②の計) 8,714,268円						
評価・課題	社協会費は、令和6年度達成率79.7%となり、前年度比80.5% 69,132円の減収となった。今後は、本会の活動を知っていただき、応援団となっていただくよう会費の新規依頼先の開拓など、強化を図っていく。 寄附金は、令和6年度達成率113.1%であったが、前年度比1,930,778円の減収となった。						
3	4 地域福祉計画と地域福祉活動計画の一体的な策定 18 地域福祉活動計画の推進 各事業担当者による第4次地域福活動計画令和5年度事業評価を行い、市の地域福祉計画懇話会にて懇話会委員（兼うるま市地域福祉活動計画評価検討委員）へ報告した。 また、地域福祉活動計画の見直しや次期計画の参考にするため、地域住民を対象とした地域懇談会を開催した。						
3	5 理事会及び評議員会の開催 (1) 理事会 ①第1回理事会 期 日：令和6年6月4日(火)午後2時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 第2交流室 参加者：理事14名 監事1名 議案事項 議案第1号 第11期理事候補者(案)の承認について 議案第2号 評議員候補者(案)の選任について 議案第3号 就業規則の一部改正(案)について 議案第4号 職制規程の一部改正(案)について 議案第5号 職員の再雇用に関する規程の一部改正(案)について 議案第6号 指定居宅介護支援事業所及び指定通所介護事業所非常勤職員、パートタイマー等就業規則の廃止(案)について 議案第7号 令和5年度事業実績報告の承認について 議案第8号 令和5年度収支決算書の承認について 議案第9号 固定資産〔通所介護事業車輛(介護事業所配置)〕の除却について 議案第10号 令和6年度第1回資金収支補正予算(案)について 議案第11号 令和6年度第1回評議員選任・解任委員会の開催日時及び場所(案)について 議案第12号 令和6年度第1回評議員会(定時評議員会)の開催日時及び場所(案)について 報告事項 報告第1号 会長及び常務理事の職務執行状況報告について(令和6年2月～4月)						

3	<p>②第2回理事会 期 日：令和7年2月4日（火）午後2時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 第2交流室 参加者：理事11名 監事2名 議案事項 議案第1号 定款の一部改正（案）について 議案第2号 令和6年度第2回資金収支補正予算（案）について 議案第3号 社会福祉法人 うるま市社会福祉協議会 非常勤職員、パートタイマー等就業規則（案）の一部改正について 議案第4号 うるま市与那城社会福祉センターの改修工事に伴う固定資産（基本財産）の除却について 議案第5号 令和7年度 事業計画（案）について 議案第6号 令和7年度 資金収支予算書（案）について 議案第7号 評議員選任・解任委員候補者（案）の選任について 議案第8号 令和6年度第2回評議員会の開催日及び場所（案）について</p> <p>報告事項 報告第1号 会長及び常務理事の職務執行状況報告について（令和6年5月～12月末）</p> <p>(2) 評議員会 ①第1回評議員会 期 日：令和6年6月18日（火）午後2時 場 所：うるま市健康福祉センター 3階 視聴覚室A B 参加者：評議員26名 監事1名 議案事項 議案第1号 第11期理事候補者選任(案)承認について 議案第2号 令和5年度事業実績報告の承認について 議案第3号 令和5年度収支決算書の承認について 議案第4号 令和6年度第1回資金収支補正予算(案)について</p> <p>報告事項 報告第1号 会長及び常務理事の職務執行状況報告について（令和6年2月～4月）</p> <p>②第2回評議員会 期 日：令和7年2月27日（木）午前10時 場 所：うるま市健康福祉センター 3階 視聴覚室A B 参加者：評議員23名 監事2名 議案事項 議案第1号 定款の一部改正(案)について 議案第2号 令和6年度第2回資金収支補正予算(案)について 議案第3号 うるま市与那城社会福祉センターの改修工事に伴う固定資産（基本財産）の除却について 議案第4号 令和7年度事業計画(案)について 議案第5号 令和7年度資金収支予算(案)について</p> <p>報告事項 報告第1号 会長及び常務理事の職務執行状況報告について（令和6年5月1日～12月末）</p>
3	<p>(3) 評議員選任・解任委員会 ①第1回評議員選任・解任委員会 期 日：令和6年6月10日（月）午後2時 場 所：うるま市健康福祉センター 2階 第3会議室 議案事項 議案第1号 評議員候補者の選任(案)について</p>
評価・課題	<p>理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会は計画通り実施できた。</p>
2	<p>6 業務監査の実施 ①内部監査 期 日：令和6年5月27日（月）午前9時～午後5時10分（大城 学監事：事業報告等） 令和6年5月28日（火）午前9時～正午（宮平 弘監事：計算関係書類及び財産目録）</p>

2	<p>場 所：うるま市健康福祉センターうるみん（2F デイサービス室） 監 事：宮平 弘・大城 学 参加者：会長以下事務局長ほか職員</p>
評価・課題	<p>監査において、各事業への社協ビジョンの取組み等の整理や適正な経理処理に努めるよう口頭による指摘があったことに対し、適正に運営できるよう改善を図っていく。</p>
3	<p>7 管理職会議等の開催 開催数 24回(代表的な内容ピックアップ) 協議事項 理事会・評議員会上程議案、主要行事の実施に関する事、諸規程の整備について、事業の進捗に関する事、人事評価に関する事、中期経営計画に関する事 他</p>
5	<p>8 うるま市との連携 福祉まつり準備会 3回 対 象：福祉政策課職員、社協中堅以下職員 内 容：うるま市の現状や将来想定される福祉課題について、共有し、課題解決のための企画を福祉まつりに組みこむことを目的に実施。「小さな感動」をテーマとして各種催しを企画し、市内の高校生、中学生へ参画の働きかけを行う方向性を取りまとめた。</p>
評価・課題	<p>福祉まつりの推進について、昨年に引き続き福祉部職員に事務局に入っていたことで、うるま市の福祉課題を共有することができた。また、将来の担い手となる若い世代の育成をテーマにステージでは高校生によるサブ司会や認知症啓発を目的としたRUN伴うるまでの伴走等まつりの準備を合わせ高校生ボランティア92名の協力得て、福祉について触れる機会となった。多世代、多様な方々が参画し、「小さな感動」を来場者へ伝える機会となった。</p>
5	<p>9 社協だよりの発行(4回発行) 当初の計画通り年4回、発行部数44,000部を発行。今後も各課と連携しながら紙面内容の充実と福祉情報発信に努めていく。</p>
5	<p>10 ホームページ・SNS等による情報の発信 ホームページ、Facebook、Instagram、YouTubeチャンネルにて福祉に関する情報発信を随時行っている。令和6年度は、職員の協力のもとSNSの更新回数を増やすことができたが、情報発信の内容については十分ではないため、今後も市民の求める情報発信に努めていく。 ホームページ更新64回(-5回)、Facebook更新87回(+1回)、Instagram更新368回(+261回)、YouTube更新63回(+61回)</p>
3	<p>11 うるま市広報誌等の活用 広報うるまに寄附者の掲載や各種事業、イベントの掲載を依頼した。</p>
4	<p>12 うるま市福祉まつりの実施(表彰・感謝含む) (1)実行委員会の開催 ①第1回実行委員会 日時：令和6年7月10日(水)午後2時 場所：健康福祉センターうるみん3階 ホール 出席者：15名 ②第2回実行委員会 日時：令和6年9月27日(金)午前10時 場所：健康福祉センターうるみん3階 ホール 出席者：17名 ③第3回実行委員会 日時：令和7年2月17日(月)午前10時 場所：健康福祉センターうるみん3階 視聴覚室B 出席者：11名 (2)2024年度うるま市福祉まつりの開催 日時：令和6年11月9日(土)午前9時半～午後5時 会場：うるま市健康福祉センターうるみん及び周辺 来場者：延3,000人 内容：感謝・表彰(20個人、23団体) ステージ(24団体)、販売(28団体)、パネル展示(26団体) 体験(糸かけ体験、しめ縄づくり、車いすサッカー体験、音訳体験、災害救助犬・警察犬実演、セラピー犬とのふれあい、消しゴムはんこ体験、ゲーム体験会、かめば号、音楽花火鑑賞会など) その他催し(RUN伴うるま、喜納翼さん子どもたちとの交流、助成金申請書き方講座、やなえもんふわふわ遊具、フィットネスセンター無料体験レッスン)</p>

3	<p>13 共同募金委員会の運営</p> <p>市共同募金委員会および市共同募金委員会審査委員会の開催となった。審査委員会では適切な配分になるよう審査を行った。</p> <p>(1) 第1回うるま市共同募金委員会 日時：令和6年4月30日（火）14時 場所：健康福祉センターうるみん 2階 第二交流室 出席者：12名 内容：報告第1号 うるま市共同募金委員会監事の選任について 報告第2号 令和5年度一補正予算について 報告第3号 令和5年度審査委員会助成結果報告について 議案第1号 令和6年度助成金事業計画(案)について 議案第2号 令和5年度事業報告について 議案第3号 令和5年度決算報告について</p> <p>(2) 第2回うるま市共同募金委員会 日時：令和6年9月19日（火）14時 場所：健康福祉センターうるみん 3階 視聴覚室A 出席者：13名 内容：報告第1号 委員の選任報告について 議案第1号 審査委員の選任(案)について 議案第2号 令和6年度共同募金運動事業計画(案)について 議案第3号 令和6年度資金収支予算書(案)について</p> <p>(3) 令和6年度共同募金運動出発式 日時：令和6年10月1日（火）10時 場所：うるま市健康福祉センターうるみん2階イベントスペース 参加者：60名 うるま市長、市議会副議長、教育長、民生委員及び福祉団体、関係機関 終了後、民生児童委員及び職員にて法人募金の事業所へ募金依頼を行った。</p> <p>(4) 令和6年度うるま市共同募金委員会 第1回審査委員会 日時：令和7年2月26日（水）14時 場所：健康福祉センターうるみん 2階 第二交流室 出席者：18名 内容：令和6年度助成希望団体から質疑応答及び書類審査を得て審査を図った。 団体数：10団体 事業数：赤い羽根共同募金18事業、赤い羽根テーマ型募金1事業、歳末たすけあい募金1事業</p>																																																							
3	<p>(5) 令和6年度 共同募金実績</p> <table border="1" data-bbox="488 1144 1489 1603"> <thead> <tr> <th>募金種別</th> <th colspan="2">赤い羽根</th> <th colspan="2">歳末たすけあい</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戸別募金</td> <td>5,776,592円</td> <td>【81件】</td> <td>3,218,407円</td> <td>【77件】</td> </tr> <tr> <td>職域募金</td> <td>1,512,444円</td> <td>【176件】</td> <td>734,419円</td> <td>【154件】</td> </tr> <tr> <td>街頭募金</td> <td>121,337円</td> <td>【5件】</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>学校募金</td> <td>575,112円</td> <td>【22件】</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>個人大口募金</td> <td>871,682円</td> <td>【133件】</td> <td>285,851円</td> <td>【11件】</td> </tr> <tr> <td>法人募金</td> <td>1,343,000円</td> <td>【120件】</td> <td>1,070,000円</td> <td>【58件】</td> </tr> <tr> <td>イベント募金</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>118,425円</td> <td>【1件】</td> </tr> <tr> <td>その他募金</td> <td>279,061円</td> <td>【38件】</td> <td>36,966円</td> <td>【6件】</td> </tr> <tr> <td>県共募取扱い団体</td> <td>910,636円</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>11,389,864円</td> <td>【575件】</td> <td>5,464,068円</td> <td>【307件】</td> </tr> </tbody> </table>	募金種別	赤い羽根		歳末たすけあい		戸別募金	5,776,592円	【81件】	3,218,407円	【77件】	職域募金	1,512,444円	【176件】	734,419円	【154件】	街頭募金	121,337円	【5件】	—	—	学校募金	575,112円	【22件】	—	—	個人大口募金	871,682円	【133件】	285,851円	【11件】	法人募金	1,343,000円	【120件】	1,070,000円	【58件】	イベント募金	—	—	118,425円	【1件】	その他募金	279,061円	【38件】	36,966円	【6件】	県共募取扱い団体	910,636円	—	—	—	合計	11,389,864円	【575件】	5,464,068円	【307件】
募金種別	赤い羽根		歳末たすけあい																																																					
戸別募金	5,776,592円	【81件】	3,218,407円	【77件】																																																				
職域募金	1,512,444円	【176件】	734,419円	【154件】																																																				
街頭募金	121,337円	【5件】	—	—																																																				
学校募金	575,112円	【22件】	—	—																																																				
個人大口募金	871,682円	【133件】	285,851円	【11件】																																																				
法人募金	1,343,000円	【120件】	1,070,000円	【58件】																																																				
イベント募金	—	—	118,425円	【1件】																																																				
その他募金	279,061円	【38件】	36,966円	【6件】																																																				
県共募取扱い団体	910,636円	—	—	—																																																				
合計	11,389,864円	【575件】	5,464,068円	【307件】																																																				
4	<p>14 共同募金通信の発行</p> <p>物価高騰による印刷費値上がりにより通信の発行はできなかったため、県共同募金のチラシを活用し共同募金運動の周知を図った。募金者に分かりやすい紙面づくりに努めた。</p>																																																							
3	<p>15 共同募金運動の協力支援</p> <p>自治会の協力のもと戸別募金をはじめ、個人事業所や地域の法人等の大口まわりを実施した。民生児童委員や他団体等の協力のもと街頭募金、イベント会場での募金箱設置協力をいただくなど、多くの市民や企業にご支援いただきながら募金活動を行うことができた。</p> <p>令和6年度は、2つの大規模な災害が起きた事をうけ、災害たすけあい募金の募集を行った。県内でも北部豪雨災害で甚大な被害を受け、特に大きな被害があった能登半島地震もあわせ、総額669,067円の募金を募ることができた。</p>																																																							

2	<p>16 地域懇談会や、「うるま市地域福祉活動計画評価検討委員会」の設置による計画の評価</p> <p>地域懇談会の実施 ①具志川地区：令和6年12月17日（火）・参加者19名 ②石川地区：令和6年12月20日（金）・参加者15名 ③勝連地区/与那城地区：令和7年2月28日（金）・参加者14名</p> <p>計画評価に係る地域懇談会は、住民主体の地域福祉活動推進に不可欠であり、継続して実施する必要がある。</p>																																																								
3	<p>17 福祉団体助成事業（うるま市自治会長連絡協議会）</p> <p>市自治会長連絡協議会の効率的な活動ができるよう助成金を活用していただいている。 うるま市自治会長連絡協議会 120,000円(法人)</p>																																																								
3	<p>18 福祉協力会助成事業</p> <p>57ヶ所の各行政区福祉協力会、1ヶ所の団地自治会へ助成を行い、各課と連携しながら活動支援を行った。各福祉協力会では、地域ニーズに応じた事業活動を展開しており、地域福祉の推進につながっている。 今後は、類似の事業もあることから、関係機関と調整しながら事業の見直しを検討する。</p>																																																								
5	<p>19 相談援助実習の受入れ（大学生等）</p> <p>社会福祉士及び精神保健福祉士相談援助実習の受け入れ 社会福祉士相談援助実習：8名 （沖縄大学、沖縄国際大学、琉球大学、ソーシャルワーク専門学校） 精神保健福祉士相談援助実習：1名（沖縄大学）</p>																																																								
4	<p>20 職場体験学習、就労体験の受入れ</p> <p>市内の中学校や高等特別支援高等学校の依頼を受け、体験の受入れを行った。 高江洲中学校（2名）、具志川中学校（2名）、高等特別支援高等学校（2名）</p>																																																								
5	<p>21 その他、福祉に関する必要な事業等への協力及び実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラオケ機材の貸出（2台） 年間122回 ・貸出車両（10名乗り 2台） 年間232回 <p>支所窓口の利用状況(週2日開設)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>石川支所</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(火・金)来客</td> <td>64人</td> <td>68人</td> <td>32人</td> <td>19人</td> <td>24人</td> <td>31人</td> <td>22人</td> <td>23人</td> <td>13人</td> <td>23人</td> <td>31人</td> <td>57人</td> <td>407人</td> </tr> <tr> <th>勝連支所</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>合計</th> </tr> <tr> <td>(月・木)来客</td> <td>26人</td> <td>21人</td> <td>15人</td> <td>19人</td> <td>23人</td> <td>9人</td> <td>11人</td> <td>11人</td> <td>11人</td> <td>14人</td> <td>13人</td> <td>15人</td> <td>188人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・「2025 うるま みんな食堂」の開催 日常出会うことのない力士との交流を通して、子ども達へ普段体験できない体験の機会を提供するとともに、子ども達が伝統文化に親しむことで、相撲やスポーツの楽しさを感じてもらい、次世代を担う子ども達の健全育成を図ることを目的に開催した。 日 時：令和7年2月21日（金）午後3時～午後6時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん 参加者：550名（子どもの居場所に通う子どもや地域住民等） 協 力：一般社団法人URUFULL、安治川部屋、うるま市食生活推進協議会 内 容：ちゃんこ配布、安治川部屋力士との交流 	石川支所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	(火・金)来客	64人	68人	32人	19人	24人	31人	22人	23人	13人	23人	31人	57人	407人	勝連支所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	(月・木)来客	26人	21人	15人	19人	23人	9人	11人	11人	11人	14人	13人	15人	188人
石川支所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計																																												
(火・金)来客	64人	68人	32人	19人	24人	31人	22人	23人	13人	23人	31人	57人	407人																																												
勝連支所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計																																												
(月・木)来客	26人	21人	15人	19人	23人	9人	11人	11人	11人	14人	13人	15人	188人																																												
4	<p>22 事業評価及び組織体制等の見直し</p> <p>事業評価</p> <p>中期経営計画については、令和7年度に向け組織体制の見直しを行い、令和7年4月より専門部門の連携強化を図るため在宅福祉課を地域福祉課に統合し、総務課との2課体制として組織体制の見直しを行った。令和7年度においてはPDCAサイクルによる進行管理・評価・見直しを行う。</p>																																																								
4	<p>23 業務調整会議、連絡会等の実施</p> <p>①子どもの居場所ネットワーク連絡会 令和6年4月22日（月）午前10時～正午・参加者：17名 令和6年6月28日（金）午前10時～正午・参加者：11名 令和6年11月21日（木）午前10時～正午・参加者：16名</p>																																																								

4	②社会福祉法人等ネットワーク連絡会 令和6年7月5日（金） 参加者：13法人（障がい・高齢分野 10法人、保育分野 3法人）・20名 内 容：令和5年度報告と令和6年度活動について 防災（減災）に向けた各法人の取り組みについて 令和7年3月3日（月） 参加者：6法人（障がい・高齢分野 5法人、保育分野 1法人）・9名 内 容：令和6年度の活動報告と振り返り 今後の活動に向けての意見交換
3	24 社会福祉士、精神保健福祉士等の専門職員の採用 社会福祉士 正規職員2名 非常勤職員3名 社会福祉主事 非常勤職員1名
3	25 資格取得支援 養成校入校のための推薦書及び実務経験証明書発行 1名 スクーリング等の養成課程に係る特別休暇付与 対象者なし 受験に係る休暇の付与等環境支援 4名（内 合格者1名）
4	26 職員学習会・研修の機会の提供（実施・派遣） ①「うるま市社協職員のための話し合いの場づくり勉強会」の実施 令和6年6月25日（火）午後1時30分～午後5時・参加者24名 令和6年7月24日（水）午後1時30分～午後5時・参加者17名 令和6年8月21日（水）午後1時30分～午後5時・参加者20名 令和6年9月26日（水）午後1時30分～午後5時・参加者11名 講師：NPO法人まちなか研究所わくわく 宮道 喜一 氏 ②社会福祉協議会中堅職員研修 日 時：令和6年5月31日（金）午前10時～午後5時 場 所：沖縄県総合福祉センター 参加者：2名
3	27 苦情解決の体制づくり 第8期第三者委員の選任（任期：令和6年3月8日～令和8年3月9日） 1. 堀 晋輔（学識経験者） 2. 伊計 昇明（社会福祉士） 3. 上門 はるみ（学識経験者）

2. 福祉センター運営事業

財源：市受託事業・雑収入等

収入額	1,747,620円	支出額	1,747,620円	差異	0円				
目的内容	社協が行う各種事業を実施することで、地域福祉の推進と住民への福祉サービスの充実に必要な環境整備等を行う。								
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった								
事業（項目）									
与那城社会福祉センターの管理運営									
5	区分	利用回数	利用時間	利用人数	利用料金	備 考			
	行政関係	22回	44時間	254人	16,500円	市建築工事課与那城福祉センター工事業者打合せ（クレーン使用料18時間×500円）			
	市内福祉団体	16回	27時間	292人	免除	社協関連事業名等	利用回数	利用時間	利用人数
						社協事業	0回	0時間	0人
						ミニデイ	9回	18時間	238人
						民児協	7回	9時間	54人
						老人クラブ	0回	0時間	0人
						ボランティア団体	0回	0時間	0人
						相談支援	0回	0時間	0人
	デイサービス	0回	0時間	0人					
一般市民（個人・団体）	2回	8時間	125人	0円	個人・団体事業名等	利用回数	利用時間	利用人数	
一般市街	0回	0時間	0人	0円	市内内訳	屋慶名区	2回	8時間	125人
					その他	0回	0時間	0人	
合計	40回	79時間	671人	16,500円	市外	0回	0時間	0人	
うるま市社会福祉センター条例第23条による免除									

評価・課題	工事完了までの間は一般利用ができない状況であったが、無事に与那城社会福祉センター改修を終えた。
-------	---

3. 障害者社会参加促進事業

財源：市受託事業

(1) 障害者社会参加促進事業

収入額	7,850,379円	支出額	7,850,379円	差異	0円	
目的内容	障がい者が有する能力及び適正に応じ、日常生活又は社会生活を営むことができるよう地域の特性や利用者の状況に応じた事業を効率的かつ効果的に実施し、障がい者等の福祉の増進を図ります。					
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった					
5	事業(項目)					
	1 点字・声の 広報等発行事業	決算内訳				
	収入額	974,492円	支出額	974,492円	差異 0円	
視覚障がい者の地域生活をするうえで必要な各種情報の発信(広報誌等)を定期的に行い、視覚障がい者の社会参加の促進を行った。 ①点字訳：広報うるま252部/社協だより84部 /カレンダー21部 利用者数(施設)21名 *個人16名、施設5 ②音声訳：広報うるま198本/社協だより67本 利用者数(施設)15名 *個人10名、施設5						
5	2 手話奉仕員 養成講座事業	決算内訳				
	収入額	800,350円	支出額	800,350円	差異 0円	
聴覚障がい者とのコミュニケーションの支援者として期待される手話奉仕員の養成を行った。 ①手話奉仕員養成講座(基礎) 1. 受講者数：8名 *修了者数6名 2. 実施期間：令和6年6月13日(木)～令和7年1月23日(木) 午後2時～4時(全30回) 3. 講師：高江洲 勝美(ろう講師)、赤嶺 典子(聴講師)						
1	3 朗読奉仕員養成 講座事業	決算内訳				
	収入額	10,285円	支出額	10,285円	差異 0円	
視覚障がい者に情報を届けるお手伝い(声の広報活動等)をする朗読奉仕員養成講座を開催する。 今年度開催無し						
3	4 点訳奉仕員養成 講座事業	決算内訳				
	収入額	246,617円	支出額	246,617円	差異 0円	
点訳を学ぶことによって視覚障害者のへの理解を深め、視覚障害者への広報活動等の支援者として、点訳に必要な技術を習得した、点訳工房(ボランティア団体)で活動している皆さんの更なるスキルアップすることを目的に開催した。 ①点字奉仕員養成講座 1. 受講者数：5名 *修了者数5名 2. 実施期間：令和7年2月14日(金)～令和7年3月28日(金) 午後2時～4時(全6回) 3. 講師：田場 房子(点訳工房)、牧志 公恵						
5	5 福祉機器 リサイクル事業	決算内訳				
	収入額	160,570円	支出額	160,570円	差異 0円	
不要になった福祉機器を再利用し、貸し出しを行う事により在宅療養者の日常生活のサポートと制度活用が困難な方々に対して応急的支援を行った。						
		福祉機器	件数	地区内訳	件数	
		車いす	127件	具志川地区	111件	
		松葉杖	4件	石川地区	25件	
		四点歩行器	15件	勝連地区	14件	
		シャワーチェア	20件	与那城地区	16件	
		ポータブルトイレ	0件			
		合計	166件	合計	166件	

	6 リフト付き福祉バス運行事業	決算内訳					
		収入額	5,362,295円	支出額	5,362,295円	差異	0円
5	移動が困難な障がい者等の外出支援のため、福祉バスを運行することにより、地域における自立生活及び社会参加の促進を行った。 ①登録者数 : 23名 ②延べ利用回数 : 307回						
	利用内容 (延回数)		障がい種別 (延回数)		地区数 (延回数)		
	病院受診等	145回	視覚障がい	12回	具志川	189回	
	買い物等	109回	上肢・下肢障がい(車いす)	94回	石川	60回	
	公共施設利用(諸手続き)	5回	聴覚障がい	30回	勝連	20回	
	趣味活動	0回	内部障がい	99回	与那城	38回	
	介添え	0回	脳卒中(片麻痺)	72回			
	その他	48回	家族介助	74回			
	合計	307回	合計	381回	合計	307回	
		7 要約筆記者派遣事業	決算内訳				
収入額			295,770円	支出額	295,770円	差異	0円
5	聴覚障がい者等の意思疎通を支援するため要約筆記者の派遣を行った。 ①要約筆記奉仕員 : 登録者数13名						
	派遣内容		件数	派遣人数			
	当事者活動(団体)		10件	24人			
	公的機関(訪問相談)		2件				
	個人(講座・勉強会等)		1件				
合計		13件					
評価・課題	市内の障がい者が地域で生活していくうえでの支援が拡充できた。奉仕員養成講座における点字訳では、4年度講座にて奉仕員となった3名がスキルアップを重ね、点訳工房の一員として活躍している。課題としては、朗読奉仕員養成講座、点訳奉仕員養成講座の周知と新たな担い手確保。また要約筆記者派遣事業の人材確保が考えられる。						

4. ふれあいコール事業(市受託事業)

財源：市受託事業

収入額	1,147,025円	支出額	1,147,025円	差異	0円
目的内容	独居高齢者に対し定期的に電話をかけることにより、その健康状態の確認と心のふれあいの提供及び緊急事態発生時の迅速な通報等を行います。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
5	事業(項目)				
	①実施日：原則 毎週 月・水・金(週3回) 午前中 ②利用実績：4,171件 ③実人数：31名(具志川16名、石川6名、勝連5名、与那城4名) ④コール員：2名				
評価・課題	一人暮らしの高齢者を対象とし、電話による定期的な健康状態の確認や利用者との心のふれあいを図り、通話不通時の迅速な通報等、自治会関係者や包括支援センターと連携し安否確認が取れた。経年により生活状況等の変化もあり、利用者情報の共有において、関係者や包括支援センターとの連携を密に図る必要がある。				

5. 地域活動支援センター事業

財源：市受託事業

収入額	39,432,970円	支出額	32,372,499円	差異	7,060,471円
(1) 障害者地域活動支援センター事業 (市受託事業)					
目的内容	障がい者がその有する能力に応じ自立した生活が送れるよう、生活相談支援を行うとともに、社会参加活動や創作活動支援をとおして、自立意欲を高め社会復帰と社会参加の促進を図ります。				
1 地域活動支援センター事業	決算内訳				
	収入額	12,798,928円	支出額	11,936,246円	差異 862,682円
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
4	事業(項目) 来所者数を1日概ね20名を目標に社会参加活動や創作活動に取り組み、令和4年度10.7名 令和5年度12.5名 令和6年度13.8名と目標には達成しないものの少しずつ利用者数は伸びてきている。また新規契約者も令和4年10名、令和5年度9名、令和6年9名となっている。				
評価・課題	地域活動支援センター利用者は福祉サービス事業所の増加により減少傾向であるが、関係機関への事業説明や創作・生産活動の見直しなどをとおして、利用者数は回復してきている。				
(2) 障害者相談支援事業 (市受託事業)					
目的内容	障がい者(児)が住み慣れた地域で希望する生活が実現できるよう生活相談支援を総合的かつ継続的にを行います。				
1 障害者相談支援事業	決算内訳				
	収入額	9,440,710円	支出額	9,440,710円	差異 0円
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
3	事業(項目) 令和6年度は相談員の異動に伴い1名体制にて事業実施となるが、年度途中の人事異動により9月から2名体制となる。 相談者数203名 関係機関調整も1,232件と増加傾向となってきた。				
評価・課題	相談者の取り巻く環境が以前より複雑化しており、関わる関係機関も多く相談員1人で行う業務量が増えている。令和6年9月から正職員配置による体制強化を行い、令和7年度は1名増員の相談員3名体制となるが、継続的に業務内容の検証を行い、職員の定着を目指す。				
(3) 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業 (自主事業) ※ 事業内容は同じ					
目的内容	障がい者(児)の自立支援を目指し、利用者のニーズに応じた適切なサービス等利用計画を作成し、必要な支援を行います。				
1 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業	決算内訳				
	収入額	17,193,332円	支出額	10,995,543円	差異 6,197,789円
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
4	事業(項目) 契約者数：指定特定(者)115名 指定障害児42名 令和6年度はモニタリング回数の見直しや、研修の受講など行いながら加算の取得を行うなど適正な人数で運営できる工夫を行った結果、前年度より910,000円の増加となるが今後も経営を考えながら事業運営を行っていききたい。				
評価・課題	機能強化加算やモニタリングの見直し等を行い収益増としたが、相談支援専門員と相談員兼事務員の退職により、令和7年度は専従職員1名と正職員兼務3名体制へ変更となる。今後も収益や人員確保等の課題があり、見直しや検討を行って行きたい。				

6. 生きがい活動支援通所事業

財源：市受託事業

収入額	18,510,800円	支出額	18,510,800円	差異	0円		
(1) 生きがい活動支援通所事業(地域型)：ミニデイサービス(市受託事業)							
目的内容	高齢者の生きがいと社会参加を促進し、社会的孤立の解消、自立生活の助長及びフレイル予防や口腔ケアなどの健康増進を図りつつ、気になる参加者の現状把握に務め、福祉推進員と情報を共有し協働で活動を実施します。また、主体的にミニデイ活動を運営する福祉推進会を支援し事業の推進を図る。						
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった						
5	事業(項目)						
	①実施状況と総参加者数(延べ)		具志川	石川	勝連	与那城	合計
		実施区数	30	15	4	11	60
		実施回数	496	306	71	139	1,012
		延参加者数	8,695	4,087	1,570	1,996	16,348
		参加者平均(人)	17.5	13.4	22.1	14.3	16.2
	②参加者数(延べ)対象者・推進員の比較		具志川	石川	勝連	与那城	合計
		対象者数	6,086	2,764	841	1,439	11,130
		〃 平均(人)	12.3	9	11.9	10.4	11.0
		推進員数	2,609	1,323	729	557	5,218
〃 平均(人)		5.3	4.3	10.3	4.0	5.2	
評価・課題	<p>2推進会で活動休止の状況がなり、対象者のフレイル予防や社会的孤立の解消など予防と対策について自治会関係者及び関連機関と協議連携し取り組んだが活動再開に至っていない。よって延実施回数は前年比で減ではあるが、延総参加者数(対象者+推進員)は前年比で増となっている。一方、推進員の高齢に伴う離脱(対象者への移行)の現状がみられる。</p> <p>こうした状況を踏まえ、推進員の担い手の確保についても生活支援コーディネーターと課題及び地域情報を共有し、若手老人クラブ会員や地域資源の活用等、地域支え合い活動の意識づけと地域の力で解決できるようコーディネートし、体制の強化に努めた。</p> <p>事業運用では、交流と情報交換等を目的とした他推進会との合同開催が数カ所で行われ、参加者の活動意欲の向上に繋がった。事業運営に係る事務作業について、申請書・報告書等提出物の簡素化を望む声が推進会からあり、検討の必要があると思われる。</p>						

7. 福祉金庫貸付事業(自主事業)

財源：社協会費・寄附金

収入額	446,457円	支出額	94,000円	差異	352,457円
目的内容	低所得世帯に対し、生活維持のため必要な資金を応急的に貸付けることにより、生活意欲の助長促進を図るとともに、必要な相談支援を行います。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
5	事業(項目)				
	<p>緊急度が高く、生活福祉資金等公的な貸付を受けることが困難で、切迫した状況にある世帯へ生計や医療のための資金の貸付と関係機関と連携した相談支援を行った。</p> <p>・貸付件数：4件</p>				
評価・課題	<p>貸付にあわせて関係機関による支援を受けることで、貸付け後の自立を見据えた相談支援を行うことができた。</p> <p>不安定就労や物価高騰の影響により、生活困窮世帯の課題は今後も厳しい状況が続くと予想されるため、関係機関と連携しながら、迅速に対応できるようにしていく。また、そのための原資の確保が必要。</p>				

8. 生活福祉資金貸付事務事業

財源：県社協受託事業

収入額	21, 224, 397円	支出額	21, 221, 738円	差異	2, 659円
目的内容	低所得世帯、高齢者世帯、障がい者世帯を対象に必要な資金を他から受けることが困難な世帯に対し、資金の貸付と必要な相談支援を行います。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
5	事業（項目）				
	<p>低所得世帯等に対し、生活の安定や経済的自立を支援するための相談や必要な資金の貸付の支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（本則貸付に関する）相談件数：635件 ・資金種別貸付進達件数：緊急小口資金 4件 福祉資金 8件 教育支援資金 8件 不動産担保型生活福祉資金 1件 ・コロナ特例借受人への見守り（アウトリーチ）相談支援：2, 189件 ・関係機関との会議・研修会等への参加：27回 ・民生委員、関係機関との連携 貸付制度における民生委員の役割等についての理解と協力を求め、連携して取り組んだ。 また、関係機関へ貸付制度の説明を行い、理解と協力を求め、連携して取り組んだ。 （障がい福祉課、保護課、介護長寿課、うるま市パーソナルサポートセンター 地域包括支援センター等） ・償還指導の実施：233件 （市独自：令和6年9月11日～9月12日、沖縄県社協合同：令和6年10月23日～10月25日） 				
評価・課題	<p>社会・経済活動は再開し、生活状況が立ち直りを見せている世帯も増えてきたが、依然として不安定就労や物価高騰の影響を受けて生活が困窮し、生活再建の課題へ向けていまだ深刻な状況を抱えている世帯も多く、低所得世帯等からの貸付相談は、引き続き後を絶たない。加えてコロナ特例貸付で返済が困難な借受人からの返済免除や猶予の相談も増加している。返済猶予を行った借受人や返済が遅延している借受人等への面談・訪問等のアウトリーチによる生活再建に向けた支援を強化し、関係機関へのつなぎなど連携した支援が今後も必要。</p>				

9. 権利擁護センター事業

財源：市受託事業

収入額	12, 234, 583円	支出額	9, 795, 128円	差異	2, 439, 455円
目的内容	認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等のうち判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき福祉サービス利用援助を行います。また、権利擁護に関する普及及び啓発活動を実施し、対象者が地域で安心して生活できるよう環境づくりに努めます。併せて、市民の成年後見制度の理解促進や利用に関する相談支援を推進します。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
5	事業（項目）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護に関する相談及び支援：4, 321件 ・成年後見制度の利用に関する相談支援：11件（問合せ6件、相談支援5件） ・福祉サービス利用援助事業の実施：4, 273件 ・権利擁護の普及及び啓発 <ul style="list-style-type: none"> ①地域包括支援センター具志川ひがし・具志川にしと共催で権利擁護相談会を開催（開催日：令和6年9月24日 相談件数5件 パンフレット設置・ポスター掲示も行う） ②社協だよりへの掲載（日常生活自立支援事業及び成年後見制度について） ・待機者解消に向けた取り組み（新規契約）：2件 ・生活支援員養成講座（全2回）の開催 <ul style="list-style-type: none"> 日 時：①令和6年5月30日（木）午後2時～午後4時 ②令和6年6月 7日（金）午後2時～午後4時 場 所：①健康福祉センターうるみん2階 第二交流室 ②健康福祉センターうるみん2階 視聴覚室A 内 容：①動画研修／講義（生活支援員の基本姿勢、精神疾患と支援） ②講義（知的障がい者の基礎知識及び対応、認知症の基礎知識及び対応） ・成年後見制度利用促進に係る中核機関運営業務 →相談対応件数・11件（制度問合わせ6件、相談支援5件） 				

評価・課題	<p>緊急性を考慮しながら、7名の新規契約を結ぶことができた。今後も緊急性を考慮し、待機解消に努めていく。権利擁護の普及啓発の取組みを継続し、成年後見制度の利用相談や問い合わせが増加している。次年度は、後見の申立て支援も含め権利擁護に関する幅広い相談に対応できるよう、等専門員の資質向上に取り組んでいく。養成講座後、生活支援員として新たに2名の登録があり、引き続き各地区の生活支援員の担い手確保やフォローアップのための研修体制の整備に取り組んでいく。</p>
-------	---

10. 共同募金配分金事業

財源：共同募金配分事業

収入額	12,423,822円	支出額	12,423,822円	差異	0円
-----	-------------	-----	-------------	----	----

(1) 福祉団体育成活動支援 (自主事業) 財源：共募配分金

目的内容	福祉団体の現状や課題を共通理解しながら、目的に沿って自主的・主体的活動を支援します。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
5	事業(項目)				
	福祉団体助成事業	<p>市内の福祉活動の振興を図るために、福祉活動を行うことを目的とする団体活動へ助成金を交付し、団体の活性化と地域福祉の向上を図りました。</p> <p>活動助成金総額 4,760,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> うるま市民生委員児童委員協議会 1,060,000円(共募) うるま市老人クラブ連合会 450,000円(共募) うるま市身体障がい者協会 450,000円(共募) うるま市母子寡婦福祉会 450,000円(共募) うるま市ボランティア連絡協議会 150,000円(共募) うるま市手をつなぐ育成会 300,000円(共募) うるま市更生保護女性会 100,000円(共募) うるま市福祉まつり実行委員会 1,600,000円(共募) うるま市にこキッズ連絡会 100,000円(共募) いろは実行委員会 100,000円(共募) 			
5	活動支援	<p>①うるま市老人クラブ連合会 うるま市老連及び各支部と単位老人クラブを取り巻く諸課題の解決に向けた協議を行い、今後の活動計画となる「うるま市老連の現状と課題及び課題解決に向けた取り組み」策定の支援を行いました。 この計画に則り、今後はうるま市老連による支部及び単位老人クラブの活動促進の強化を図りつつ、連合会組織の自主的な運営の確立を目指すことが明確となりました。</p>			
5	活動支援	<p>②うるま市身体障がい者協会 ・第18回うるま市身体障がい者協会総会 令和6年6月16日(日) 社協会長参加 ・第60回沖縄県身体障害者スポーツ大会 令和6年8月24日(土) 社協会長参加 うるま市福祉地区選手団結団式 ・第60回沖縄県身体障害者スポーツ大会 令和6年10月12日(土) 選手送迎支援 社協会長参加 ・ // フライングディスク競技 令和6年9月7日(土) 選手送迎支援</p>			
		<p>③うるま市母子寡婦福祉会 ・第19回母子寡婦福祉会総会 ・令和6年度母と子の楽しいクリスマス会 ・令和6年度ランドセル贈呈式</p>			
評価・課題	<p>令和6年度は、初の公募助成を実施し、新しい地域課題に取り組む団体の支援を推進した。また、令和7年度助成金説明会を実施し、助成金希望団体へ助成金の概要や用途について周知を図り、財源である共同募金のことや助成金への理解を深めることができた。</p> <p>法人運営事業より支出の福祉協力会助成金事業においては、類似の助成事業もある事から、令和7年度においては事業の見直しや統合を検討していく。</p>				

(2) ①児童福祉活動

目的 内容	(児童福祉週間：こいのぼり掲揚式) 児童の健全育成活動や児童問題への関わりをとおして、地域で支える支援に取り組みます。
年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった
3	事業(項目)
	各単位民生委員児童委員協議会と協働して、児童福祉週間イベント及びこいのぼり掲揚式を開催した。 ①具志川地区(具志川東民児協・具志川西民児協共催) 日 時：令和6年4月26日(金) 午前10時～午前11時 場 所：健康福祉センターうるみん 玄関前 参加者：100名(園児) ②与那城地区(与那城民児協共催) 日 時：令和6年4月26日(金) 午前10時～午前11時 場 所：うるま市立与那城小学校 校庭 参加者：180名(園児・児童) ③勝連地区 日 時：令和6年4月26日(金) 午前10時～午前12時 場 所：うるま市勝連きむたか交流広場 参加者：120名(園児) ④石川地区 日 時：令和6年4月30日(火) 午前10時～午前11時 場 所：うるま市役所石川庁舎 南側駐車場 参加者：200名(園児)
評価・ 課題	今後のイベントの目的や実施方法については、各単位民生委員児童委員協議会が主体となって開催していくよう民生委員児童委員協議会と協議を行う。
目的 内容	(子ども未来フェスタinうるま) うるま市の「すべての子ども達の人権や健全な成長」を市民が考える機会をつくとともに、子どもや家庭、それを応援する環境づくりを推進します。
年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった
4	事業(項目)
	子ども未来フェスタinうるまの開催 日 時：令和7年1月25日(土) 午前10時～午後3時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん 来場者：延1,000名 内 容：子どもの居場所団体による出店、子どもお仕事体験、AED体験、 制服リユース、綿あめづくり体験、うるまみんなのしゃべり場カフェ等 子どもの居場所ネットワーク連絡会(再掲) ①令和6年4月22日(月) 午前10時～正午・参加者17名 ②令和6年6月28日(金) 午前10時～正午・参加者11名 ③令和6年11月21日(木) 午前10時～正午・参加者16名
評価・ 課題	子どもの未来フェスタでは、企業や市内の団体にも協力頂いたことで子どもお仕事体験やAED体験など子ども達にとって楽しさや学びを得られる良い機会となった。また、居場所の子ども達が運営するブースもあり、うるま市の子どもの居場所の啓発にもなった。さらに一般社団法人URUFULLと認定NPO法人ACEの協力により、子どもの権利について考える「しゃべり場カフェ」を行い、FMうるまでライブ配信した。子どもの居場所ネットワーク連絡会では、「ゆるく来てつながれる場」をテーマに参加団体の活動報告や情報交換を行った。今後も子どもの居場所活動者と協働し、子ども支援を推進していく必要がある。

(3) 母子・父子福祉活動

目的 内容	一人親世帯等の新入学児童に対して激励金を支給し、母子・父子世帯等の福祉向上に努めます。
----------	---

年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった	
3	事業（項目）	実施内容
	1 一人親世帯等新入学 児童激励事業	令和6年度は、122世帯（123名）へ激励金の支給を行いました。 （前度比較24世帯（25名）増）
評価・ 課題	新入学の出費が重なる時期に激励金を支給する事で、微力ではあるが母子・父子世帯への福祉向上につながっている。 赤い羽根共同募金を財源とした事業においては子どもサロンや子ども未来フェスタなど支援の充実が図られ、地域住民が行う支援の輪が広がってきております。また、同様な給付を行っている他団体もある事から、令和7年度においては、事業廃止となりました。	

(4) ① ボランティア育成活動

目的 内容	地域の中で安心して暮らし続けることができるよう、一人ひとりができる“お互いさま”の活動を提案しながら「いつでも・どこでも・誰でも」活動に参加できる体制や地域の繋がりを強化し、安心して地域活動が行える体制づくりに取り組みます。また、ボランティア活動や学習の機会をとおして社会の「困った」ことに気づき、地域の一人ひとりが主体的に取り組める地域づくりを行う。	
年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった	
4	事業（項目）	
	<p>①福祉学習プログラムのコーディネート及び講師派遣（小・中・高校） 市内小学校等の児童・生徒を対象に福祉への理解と関心を高め、人間性豊かな福祉のまちづくりに資する事を目的に福祉講話やアイマスク・点字体験等を行い、児童・生徒へ福祉に関する気づきや行動についての学びの場を提供。また、地域に暮らす障がいのある方、地域の方を講師として派遣した。 ・実施回数：延べ79回、19校</p> <p>②ボランティア団体への活動費助成 地域の課題解決に向け、一層の充実や継続が必要な活動、先駆的でユニークな活動・調査研究を行っているボランティア団体に対して助成を行い、市内のボランティア活動の活性化、地域福祉の推進を図った。 3万円助成団体（5団体）： 寿ハネーカサ会、縁人、山城区女性サークル、地域の遊び場サファリ リーディングサービスいしかわ相思樹の会 10万円助成団体（4団体）： NPO法人まくとぅー、一般社団法人おーきな笑、NPO法人沖縄災害救助犬協会 認知症と伴に+友として安心して暮らせるうま市をつくる会</p> <p>③ボランティアサロンの設置及びボランティア活動支援 週2回（水・金）ボランティア活動の拠点や交流・協働の場として、ボランティア団体や個人等が主体的かつ気軽に利用できる場としてボランティアサロンを設け、ボランティアの体制整備・強化や活動支援を行った。 週2回（水・金）延べ利用回数：134回</p> <p>④ボランティア連絡協議会の活動・年間行事支援 役員会、理事会等の支援：20回 総会、視察研修、年末交流会等の支援</p>	
4	<p>小・中・高校への福祉教育実施にコーディネート19校へ行い、プログラム実施延べ回数79回を行うことができた。今後も、継続して教育機関、地域と連携した福祉教育を推進していく。 ボランティア団体活動助成事業では、3万円コース5団体、10万円コース4団体へ助成を行い、地域の美化活動、障がい者支援、こども支援、高齢者支援、災害支援など世代や分野を超えたボランティア活動を助成事業をとおしてボランティア団体との連携、地域課題の解決に向けた支援に繋がった。 継続して地域課題解決に向けた取り組みが必要であり、企業、団体、ボランティア団体・個人と連携を強化し、地域福祉活動の支援を展開していく。</p>	

② 地域づくり支援事業

目的 内容	地域において、支援を必要とする人々の生活を支えるために、住民の主体的な活動は大きな力となります。出前講座等とおして、活動の広がりや充実を図りながら、支援を必要とする世帯の日常的な見守りや、引きこもりなど課題を抱えた方の居場所づくりをはじめ地域の支えあいの環境整備を、ボランティア団体や関係機関・団体、企業等と協働して取り組みます。
----------	---

年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった
	事業（項目）
3	<p>住民同士のつながりを基盤とした住民による多様な居場所づくりの推進と活性化及び子ども達が安心して生活できる地域の居場所づくりの推進と生活困窮世帯の孤立防止や子ども達の健やかな成長を地域で支える環境づくりを目指し、活動費助成や活動支援を行った。</p> <p>①ふれあい・いきいきサロンづくり支援：登録団体19団体 ②子どもの居場所づくり支援：登録及び支援団体12団体（内、新規登録1団体）</p> <p>市内の民間事業者等と見守りに関する協定を締結し、協定事業者が業務の範囲内で住民の異変に気付いた場合は、社協へ連絡・相談を行うことで見守り体制の構築を図った。協定締結により見守りの体制強化や要支援者の早期発見等に繋がった。</p> <p>①地域見守りネットワーク協定の締結：新規協定締結数：0件、全協定締結数：43協定（66事業所） ②地域見守りネットワーク協定先からの相談件数：1件 ③地域見守りネットワーク連絡会 日 時：令和6年6月21日（金）午後2時～午後4時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん3階 視聴覚室AB 参加者：17名 内 容：講習、応急防災グッズ紹介・作成、情報交換</p> <p>・地域福祉活動報告会 各地域の方々が一堂に会し、子どもに関する活動団体の報告をとおり、地域福祉活動への関心を深め、地域での子ども支援や支え合い活動の活性化を図ることを目的に報告会を開催した。 日 時：令和7年2月14日（金）午後2時～午後4時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん3階 ホール 参加者：80名 内 容：子ども支援活動報告（3団体）、基調講演（沖縄大学 教授 名城健二 氏）</p> <p>・支え合い委員会の設置及び活動支援 複雑多様化する課題について、地域の実情に合わせて、自治会や地域住民、関係機関等の様々な関係者が連携・協力しながら支え合う体制づくりを行うために、自治会ごとの支え合い委員会の設置と活動費助成等の支援を行った。 支え合い委員会設置：14自治会（宮城自治会（桃原・上原・池味・宮城 合同）、江洲自治会、照間自治会、赤道自治会、赤野区自治会、川田自治会、東恩納自治会、内間区自治会、平敷屋自治会、与那城自治会、与那城西原自治会）</p>
評価・ 課題	<p>地域見守りネットワークについては、企業への周知を行うことが出来ず、新規協定締結につながらなかった。</p> <p>地域活動報告会を開催することで、地域の活動者から直に報告を聞くことができ、子ども支援等地域福祉について推進することができた。</p> <p>次年度も継続してボランティアコーディネーターや生活支援コーディネーターと情報を共有し、協働して居場所づくりや支え合い委員会設置など地域づくりを推進していく必要がある。</p>

(5) 法外援助事業

目的 内容	公的制度や、その他必要な援護を受けることが困難または緊急に援護を必要とする低所得世帯（者）等に対し、緊急かつ一時的な食費や生活費、医療費等を給付することで、当面の生活を確保し、関係機関とともに相談者の生活再建の支援を行います。	
年度 評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった	
	事業（項目）	
3	生活援助	<p>現行制度では対応が困難な低所得世帯等に対し、緊急かつ一時的な食費や公共料金、医療費、就学に必要な経費等の給付を行うことで、当面の生活の確保並びに関係機関と連携した生活再建の支援を行った。</p> <p>・給付件数：1件</p>

	災害援護	令和6年度は、火災による家屋被害へ2件の申請、80,000円の給付を行った。 (前年度比較 -5件 70,000円の減)
評価・課題	不安定就労や物価高騰の影響により、低所得世帯等の課題はますます厳しくなると予想されるため、引き続き関係機関と連携しながら、迅速に対応できるようにし、世帯の自立を見据えた支援が必要。生活援助、被災者への給付をとおして、世帯の生活再建につながることができた。	

(6) 災害時の支援体制づくりの推進

目的内容	うるま市防災計画に位置付けられた社協の役割について、行政との協議を踏まえ明確にするとともに、災害時の対応について職員の意識を高め、自治会や事業所、地域住民や団体、企業と連携できるよう体制づくりを進めていきます。	
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった	
	事業(項目)	実施内容
5	1 行政との連携	行政担当課との協議を実施し、うるま市災害ボランティアセンターの設置・運営に関する協定を締結した。 協定締結式の中で、日本赤十字社沖縄県支部うるま地区長から防災資材(簡易テント) 贈呈を受けた。
4	2 災害時対応マニュアルの見直しと職員への意識づけ 令和6年度は、マニュアルの見直しが実施できなかった。 3 災害時における災害ボランティアセンターの設置・運営の職員への意識づけ ①うるま市避難確保計画説明会・講習会 日 時：令和6年7月24日(月) 午後1時30分～午後4時40分 場 所：うるま市健康福祉センター(うるみん) 参加者：3名 内 容：①避難確保計画策定について ②気象情報利用の解説 ③地域津波情報の解説 ④情報交換 ②災害ボランティアセンター運営者研修会の参加 日 時：令和6年11月29日(金) 午後1時～午後4時45分 場 所：北中城村社会福祉協議会 参加者：5名 内 容：災害ボランティアセンター設置運営訓練・講演・グループディスカッション ③防災研修会 日 時：令和6年12月6日(金) 午後2時～午後4時 場 所：うるま市本庁東棟 大講堂 参加者：6名 内 容：避難所運営図上訓練及び講義 ④職員防災研修 日 時：令和6年12月16日(月) 午後1時30分～午後3時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 デイサービス室 参加者：30名 内 容：災害発生時の対応について(被害想定や避難所運営など) ⑤炊き出し訓練 災害発生後を想定した炊き出し訓練を行い、地域・関係団体や企業との協力体制や市民への情報発信、要支援者への食糧配布をとおした安否確認の進め方など、災害発生時に必要な職員のスキルアップと、地域・団体、企業等との防災ネットワーク強化を目的に実施。同時に訓練で出来上がった食事を、歳末の時期に見守り等を必要とする市民等へ配布した。	

4	<p>日 時：令和6年12月25日（水）午前9時～午後4時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん 正面広場及び3階調理実習室 協 力：13名（うるま市パーソナルサポートセンター、民生委員、自治会 他） 食材等提供：うるま未来プロジェクトグループ うるマルシェ、 （株）野嵩商会 フレッシュプラザユニオンあげな店、A-プライスうるま店、 長堂畜産、美原ゴルフフレンジ、丸安プロパン、琉球ビバレッジ(株)、拓南商 事(株)、沖縄明治乳業(株) 配食数：カレーライス 500食</p> <p>⑥職員防災研修会 日 時：令和7年3月11日（火）午前10時～12時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん3F視聴覚室AB 参加者：30名 内 容：うるま市社会福祉協議会事業継続計画（災害BCP）について 講話、グループワーク</p> <p>⑦うるみん防災訓練 日 時：令和7年2月25日（火）午前9時30分～午前11時 場 所：うるま市健康福祉センター（うるみん） 参加者：50名 内 容：総合避難訓練(2階給油室<身体障がい者協会事務局側>から火災発生の想定) ・避難誘導（車椅子使用者含む）、消火設備及び避難経路確認、消火訓練</p>
	<p>2 4 災害・防災備品等整備事業の実施 災害ボランティアセンターの設置を想定した防災資材（簡易テント）の贈呈を受けた。</p>
評価・課題	職員研修を実施できたが、防災マニュアルの見直し、災害ボランティアセンターの立ち上げマニュアル策定及び訓練の実施計画はまだ途中で、実施には至っていない。令和7年度は、作成実施に向けて進める。

(7) 歳末たすけあい募金配分事業

目的内容	歳末に、生活困窮世帯や一人暮らし高齢者世帯など、支援を必要とする世帯に義援金の配布や行事食お届けサービスをとおして、地域で温かいお正月を迎えられるよう取り組みます。また、法外援助等で制度の狭間にある生活困窮世帯に必要な資金を給付することで生活再建を支援します。	
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった	
	事業（項目）	実施内容
4	義援金給付事業	前年度より、28世帯(34人)の減少が見られました。高齢者世帯の施設入所や死亡により給付世帯が減少が考えられる。 世帯人員数：801世帯（1,124人） 令和6年度実績額4,328,000円
4	行事食お届けサービス事業	前年度より10世帯減、個数は37個増となった。今年度より物価高もあり、1個あたり単価1,100円(100円増)で発注を行った。 世帯人員数：261世帯（376人） 令和6年度実績額413,600円
2	見守りお届けサービス事業	令和5年度モデル事業として、島しょ地域限定で、災害時に活用できる物品をお届けしながら見守りを行う事業。令和6年度は、全地域を対象に事業を展開した。26世帯(30個) ウォーターボトル防災セットをお届けした。 令和6年度実績額70,070円
3	法外援助事業 ※再掲	現行制度では対応が困難な低所得世帯等に対し、緊急かつ一時的な食費や公共料金、医療費、就学に必要な経費等の給付を行うことで、当面の生活の確保並びに関係機関と連携した生活再建の支援を行った。 ・給付件数：1件 令和6年度は、火災による家屋被害へ2件の申請、80,000円の給付を行った。 (前年度比較 -5件 70,000円の減)
評価・課題	義援金給付事業において、自治会ごとに推薦世帯の世帯分類にばらつきがあり、推薦いただく対象世帯認識の違いがあると思われる。推薦いただくにあたっては、関連する事業の説明会を実施し、統一した事業展開を図っていく。 見守りお届けサービス事業として行ったが、周知が十分ではなく当初見込みよりも申込が少ない現状にあった。次年度においては、地域ニーズに応じた事業展開を検討していく。	

11. うるま市ボランティアセンター運営事業

財源：市補助金

収入額	5, 583, 419円	支出額	5, 583, 419円	差異	0円
目的内容	ボランティアセンターを設置し、ボランティアコーディネーターを配置することで、市民のボランティア活動に関する理解と関心を高め、ボランティア活動の育成・支援を行います。また、各種活動に参加しやすい体制の整備の支援など、活動をとおり地域における福祉コミュニティの形成を図ります。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
	事業（項目）				
5	ボランティア活動に関する相談対応、情報の収集を行い、地域活動が円滑に行えるようボランティアコーディネートを行った。 ①ボランティア活動に関する相談：257件 ②ボランティア新規登録：13団体、個人84名（総計：108団体、個人235名（延4,422名）） ③ボランティア活動協力依頼：72件、斡旋人数：延685名 ④ボランティア活動保険の加入促進及び加入手続き支援 ボランティア活動保険：63件（491名）、ボランティア行事用保険：60件（4,992名） ・フードドライブ及び善意銀行の受付。集まった食料等は関係機関等と連携し、生活困窮者等へ配布した。 ①善意銀行の受付：51件（チャイルドシート・紙おむつ・生理用品・子ども用かけ布団、家電・古着・ぬいぐるみなど） ②フードドライブ：155件、11,285.7キロ（米、レトルト食品、缶詰など） ③夏のフードドライブキャンペーンの実施 期間：令和6年7月18日～9月6日 協力：市内社会福祉法人11ヶ所、認定こども園、行政 ④冬のフードドライブキャンペーンの実施 期間：令和7年2月3日～3月3日 協力：市内社会福祉法人16ヶ所				
4	・災害対策訓練研修開催 日 時：令和7年2月17日（月）午後1時30分～午後4時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん 3階 視聴覚室AB 参加者：22名 内 容：災害への備え、図上訓練 避難所運営ゲームHUG 講師 日本赤十字社沖縄県支部				
評価・課題	ボランティアセンターの運営を展開していくには、行政、地域企業、NPO団体、ボランティア団体・個人など多種多様な団体との連携が必要不可欠であるため、既存の協力団体、関係機関との連携を継続し連携の強化を行う。また、新たな地域資源との関係構築にも取り組み、地域福祉の推進、市民ボランティア活動の強化発展ができるよう事業を展開していく。				

12. うるま市生活支援体制整備事業

財源：市受託事業

収入額	22, 092, 263円	支出額	22, 092, 263円	差異	0円
目的内容	生活支援コーディネーターを配置し、地域における高齢者の生活支援体制の整備を推進するために必要な地域の高齢者の生活ニーズや地域資源の把握を行います。又、協議体を設置し、地域の支え合い活動を推進するための人材の発掘や高齢者を含めた地域住民が主体的に活動できる生活支援サービスが創設できるよう働きかけると共に、地域の多様な関係者との情報共有と連携強化を図るための場づくりを行います。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
	事業（項目）				
5	地域ニーズと社会資源の状況の見える化、問題提起	各自治会や地域活動等へ参加し、情報の集約と見える化を行った。 ・地域資源や課題に関する話し合い等：1,015回 ・「SCだより」の発行（月1回）、各自治会への配布			

5	地縁組織等多様な主体への協力依頼等の働きかけ	把握、見える化を行った地域高齢者のニーズや地域課題について共有を行った。また自治会や老人クラブ、関係機関、民間事業所、社会福祉法人等がつながるネットワークの構築と協働の働きかけを行った。 ・地域資源や課題について、多様な主体への働きかけ：105回
5	関係者のネットワーク化	関係者との情報共有、サービス提供主体間の連携体制づくりを行った。 ・事業所等との連携会議等：615回
5	目指す地域の姿・方針の共有、意識の統一	ケア会議や支え合い委員会、情報交換会等への参加を通じて、住民主体の支え合い活動の重要性を伝え、地域づくりにおける意識の統一を図った。 ・地域づくりに関する情報共有等：362回 ・自立支援型ケア会議参加：20回
5	生活支援の担い手の養成やサービスの開発	見守りや送迎、買い物支援などの資源開発に関する話し合いの場の推進とサービスの検討を行った。また、地域における住民主体の助け合い活動の中心となるキーパーソンや担い手の発掘や高齢者が担い手として活動する場づくりの働きかけを行った。 ・生活支援サービス創設に関する話し合い等：45回
5	地域の支援ニーズとサービス提供主体の活動のマッチング等	多様な主体と連携し、地域における高齢者ニーズの調査及び把握を行い、事業所等のサービスや社会資源とのつなぎ（マッチング）を行った。 ・地域資源、課題と他の取り組みとのマッチング等：138回
5	協議体の設置及び運営	把握・見える化を行った地域高齢者のニーズや地域全体の強みについて、第1層（市全体）及び第2層（日常生活圏域7箇所）で共有し、多様な主体間で連携して取り組むことができる活動について検討を行った。 ①第1層協議体（部会）の開催 日 時：令和6年7月19日（金）午後2時～午後4時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 第2交流室 参加者：12名 内 容：地域を支える仕組みづくりについて意見交換 ②第2層協議体：101回
2	重層的支援体制整備事業地域づくり事業に関すること	地域における多世代の交流や多様な活躍の場を確保する地域づくりに向け、障がい・子ども・困窮に係る事業と一体となり、地域で支え合う関係性を広げ、住民同士の交流や活躍の場を生み出すコーディネートを行った。 ・障がいや子ども子育て等多分野に関する取り組み：20回
評価・課題	高齢者が、住み慣れた地域で生きがいをもって在宅生活を継続していくためには、自治会や地域包括支援センター、民間事業所など地域の多様な主体との連携協働が不可欠である。地域の強みや高齢者のニーズを把握・見える化し、地域の支援やサービス（地域資源）を発掘し、必要に応じてサービスの立ち上げをコーディネートしていくことが必要である。	

13. 日常生活自立支援事業

財源：県社協受託事業

収入額	5,492,570円	支出額	5,492,570円	差異	0円
目的内容	認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等のうち判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき福祉サービス利用援助を行います。また、権利擁護に関する普及及び啓発活動を実施し、対象者が地域で安心して生活できるよう環境づくりに努めます。併せて、市民の成年後見制度の理解促進や利用に関する相談支援を推進します。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
	事業（項目）				
5	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護に関する相談及び支援：4,370件 ・成年後見制度の利用に関する相談支援：11件（問合せ6件、相談支援5件） ・福祉サービス利用援助事業の実施：4,365件 ・権利擁護の普及及び啓発 <ul style="list-style-type: none"> ①地域包括支援センター具志川ひがし・具志川にしと共催で権利擁護相談会を開催 開催日：令和6年9月24日 相談件数5件 広報媒体：パンフレット設置、ポスター掲示、SNS告知 				

5	<p>②社協だよりへの掲載（日常生活自立支援事業及び成年後見制度について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機者解消に向けた取り組み（新規契約）：5件 ・生活支援員養成講座（全2回）の開催 日 時：①令和6年5月30日（木）午後2時～午後4時 ②令和6年6月 7日（金）午後2時～午後4時 場 所：①健康福祉センターうるみん2階 第二交流室 ②健康福祉センターうるみん2階 視聴覚室A 内 容：①動画研修／講義（生活支援員の基本姿勢、精神疾患と支援） ②講義（知的障がい者の基礎知識及び対応、認知症の基礎知識及び対応） ・支援員フォローアップ講座の開催 日 時：令和7年1月22日（木）午後1時半～午後4時 場 所：うるま市健康福祉センターうるみん2階 第二交流室 参加者：7名 内 容：講義 ①「実践事例から学ぶ生活支援員の基本姿勢・役割」 ②「精神障がいを抱える人の地域生活を支えよう」 ・支援員交流会の開催 （令和6年7月29日参加者：4名・11月29日参加者：8名・令和7年1月22日参加者：7名）
評価・課題	<p>緊急性を考慮しながら、7名の新規契約を結ぶことができた。今後も緊急性を考慮し、待機解消に努めていく。権利擁護の普及啓発の取組みを継続し、成年後見制度の利用相談や問い合わせが増加している。次年度は、後見の申立て支援も含め権利擁護に関する幅広い相談に対応できるよう、等専門員の資質向上に取り組んでいく。養成講座後、生活支援員として新たに2名の登録があり、引き続き各地区の生活支援員の担い手確保やフォローアップのための研修体制の整備に取り組んでいく。</p>

14. うるま市地域ふれあい相談支援事業

財源：市受託事業

収入額	19,469,048円	支出額	19,469,048円	差異	0円
目的内容	<p>地域共生社会の実現の理念の下、既存の相談支援や地域づくり支援の取り組みを活かし、子ども・障がい・高齢・生活困窮といった分野別の支援体制では対応しきれないような“地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズ”に対応する包括的な支援体制を構築するため、「属性を問わない相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する重層の支援体制整備事業への移行準備を行うために地区圏域に包括的相談推進員(CSW)を配置し、総合相談や関係機関等とのネットワークの体制づくり、地域住民等との支え合いの場づくりなどの環境整備を行います。</p>				
年度評価	<p>5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった</p>				
4	<p>事業（項目）</p> <p>総合的な相談・支援を行うため、福祉圏域ごとに包括的相談推進員（CSW）を配置し、アウトリーチを主体とした相談支援を行った。</p> <p>①相談支援件数：延べ1,732件、実人数647名（高齢者、生活困窮者、障がい者、未診断、ひとり親等） ②相談内容：病気や健康・障害、生活費、食糧支援、住まい、家族関係、近隣関係、債務、介護、DV・虐待、など ③連携先：地域包括支援センター、パーソナルサポートセンター、自治会、民生委員など ④アウトリーチ等に通じた継続的支援（ひきこもり）：相談対応69件、実人数76名</p>				
4	<p>⑤津堅島出張相談会の実施 令和6年6月14日（金）・津堅公民館ホール及び訪問 令和6年10月10日（木）・津堅公民館ホール及び訪問 令和7年1月10日（金）・関係機関訪問</p> <p>⑥地域支援関係者のネットワーク構築 ・地域カンファレンスの開催 令和6年11月12日（火）午前10時～正午・19名</p> <p>⑦地域懇談会の開催（再掲） ・具志川地区：令和6年12月17日（火）・参加者19名 ・石川地区：令和6年12月20日（金）・参加者15名 ・勝連地区/与那城地区：令和7年2月28日（金）・参加者14名</p> <p>⑧支え合い委員会や地域の情報交換会への参加：209回</p>				

評価・課題	重層的支援体制整備事業へ移行を推進するための移行準備事業の一部を受託し、ひきこもり支援や津堅島出張相談会等の取り組みを実施した。事業を担う包括的相談推進員（CSW）は、地域に密着し、各圏域の総合相談・支援や他職種連携、小地域（各行政区）福祉活動の推進など、住民主体の支え合いの仕組みづくり等に関わる重要な役割を担っている。令和8年度からの重層的支援体制整備事業に向けて、引き続き各圏域の総合相談支援と関係機関との連携体制の構築・強化を図る必要がある。
-------	---

15. ちゅいしいじい事業

財源：市補助事業

収入額	4,177,411円	支出額	4,076,000円	差異	101,411円
目的内容	複数の社会福祉法人等が参画する「法人間連携プラットフォーム」を設置し、プラットフォームに参画する法人の間で、地域課題に関する討議を行うとともに、社会福祉法人等連携による協働事業の立ち上げや実施方法の検討、取組状況の検証等を行います。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
	事業（項目）				
5	<p>1. 連絡会の開催（再掲） 市内社会福祉法人が会するプラットフォームを設置・運営し、そのネットワークの構築と地域課題解決に向けた取り組みの創出や社会福祉従業者の人材確保に向けた取り組みを行った。</p> <p>①令和6年7月5日（金） 参加者：13法人（障がい・高齢分野 10法人、保育分野 3法人）・20名 内 容：令和5年度報告と令和6年度活動について 防災（減災）に向けた各法人の取り組みについて</p> <p>②令和7年3月3日（月） 参加者：6法人（障がい・高齢分野 5法人、保育分野 1法人）・9名 内 容：令和6年度の活動報告と振り返り 今後の活動に向けての意見交換</p>				
5	<p>2. 研修会の開催</p> <p>①令和6年11月26日（火）午前10時～正午 参加者：10法人（障がい・高齢分野 5法人、保育分野 5法人）・21名 内 容：BCP（事業継続計画）策定の意義と運用等について</p> <p>②令和7年2月17日（月）午後1時30分～午後4時（再掲） 参加者：11法人（障がい・高齢分野 8法人、保育分野 3法人）・32名 内 容：災害への備え・避難所運営ゲーム（HUG）</p>				
5	<p>フードドライブの実施（再掲）</p> <p>①夏のフードドライブキャンペーン 期 間：令和6年7月18日～令和6年9月6日 共 催：16法人 実 績：718kg・5,005品（共催法人他関係機関、企業、個人含む）</p> <p>②冬のフードドライブキャンペーン 期 間：令和7年2月3日～令和7年3月3日 共 催：16法人 実 績：367.9kg・2,844品（共催法人他関係機関、企業、個人含む）</p> <p>うるま市福祉のお仕事・就活応援フェアの実施 日 時：令和6年9月7日（土）午後1時～午後5時 場 所：うるま市生涯学習・文化振興センターゆらてく 参加法人：7法人 協力機関：うるま市パーソナルサポートセンター、お仕事応援センターONE×ONE 内 容：就職相談ブース、適職診断、福祉施設職員座談会（インスタライブ配信） 来場者：23名（大学生、一般求職者）</p>				
5	<p>法人後見推進検討委員会の開催（社会福祉法人連携による法人後見体制の整備）</p> <p>①令和6年7月18日（木）午後2時～午後4時 参加者：10名 内 容：法人後見事業実施要綱、推進体制フロー図、サポーター養成研修の検討 法人後見推進に必要な体制の整備と今後の進め方について</p>				

5	<p>②令和6年10月21日（月）午後2時～午後4時 参加者：12名 内 容：必要規定の検討・修正について 法人後見サポーター養成研修のプログラム検討 事業開始までのスケジュール確認</p> <p>③令和7年3月7日（金）午後2時～午後4時 参加者：10名 内 容：進捗確認と各種規定の最終確認 法人後見サポーター行動指針の検討、サポーター養成研修実施報告 法人後見事業開始に伴う次年度スケジュールについて</p>
5	<p>法人後見制度を必要とする市民が制度を活用できるよう、社協と市内社会福祉法人が連携し、法人後見事業を実施するあたり、各法人等から事業に参画する新たな担い手を養成するため実施した。</p> <p>①法人後見サポーター養成研修の実施 期 間：令和6年12月5日～令和7年2月27日・毎週木曜・全12回 参加者：2法人・5名、市民等10名 ※修了者11名 内 容：成年後見制度の概要、高齢者・障がい者の理解と権利擁護、対人援助の基礎等</p> <p>②法人後見受任体制の整備に係る協働支援事業に関する協定調印式 日 時：令和7年3月6日（木）午前10時30分～午前11時 締結法人：社会福祉法人 緑和会、社会福祉法人 起産石川</p>
評価・課題	<p>高齢・障がい分野の今後の課題である、成年後見制度の担い手確保に向けた法人後見の協働実施体制に向けて、委員会での具体的な検討や協力協定締結法人との市民の支援の協働について進めることができた。こうした社会福祉法人の協力があってこそその取り組みを推進していくためにも、法人各所が安心して参画できるためにも福祉人材育成と人材確保に向けた取り組みは一層強化推進していく必要がある。市内社会福祉法人の地域福祉推進へのさらなる参画を促し、複数の社会福祉法人間のネットワーク構築の拡充を図りながら、うるま市の地域課題解決に向けて協働できる体制の整備を強化していく。</p>

16. 地域でつくる子ども体験事業		財源：県補助事業			
収入額	1,000,000円	支出額	1,000,000円	差異	0円
目的内容	うるま市の子ども達を対象に、自分たちの暮らす地域にある伝統文化、環境美化、防災などについて学ぶ機会を提供し、「ふだんのくらしのしあわせ」のために自分たちができることを考える機会をとおし、一人一人の力強く生き抜く力を育み、将来の地域のリーダー育成など子どもの健全育成を目指した体験事業を開催します。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
	事業（項目）				
4	<p>・実行委員会の開催（4回） 日 時：令和6年5月16日（木）午前10時～正午 出席者：7名 令和6年6月13日（木）午前10時～正午 出席者：7名 令和6年9月4日（水）午前10時～正午 出席者：5名 令和6年11月27日（水）午後2時～午後4時 出席者：4名</p> <p>・2024うるまキッズサマースクールの開催 実施日：令和6年8月5日（月）午前8時30分～午後5時 令和6年8月6日（火）午前8時30分～午後5時 令和6年8月7日（水）午前8時30分～午後5時 場 所：うるま市石川保健相談センター 他 参加者：小中学生50名、高校生（運営ボランティア）10名 内 容：講話（防災・災害、ハーリー、環境美化等について）、炊き出し、防災食作り、ハーリー体験、着衣泳、グループワーク等、うるま市福祉まつりでの報告発表 協力企業、団体：沖縄ヤクルト(株)・(有)全沖フード・勝連漁業協同組合平敷屋支部・海上自衛隊沖縄基地隊・陸上自衛隊勝連分屯地・琉球ビバレッジ(株)・生活協同組合コープおきなわ・うるま市消防本部・うるま市消防団・うるま市うるま市スポーツ課・一般社団法人沖縄しまたて協会・うるま市商工会青年部・エンタメ酒場エナジー・農事組合法人うるま農場・YUCCA VOICE・Otama Biscuit</p>				

評価・課題	地域住民やボランティア団体、行政、企業、福祉関係者などと協働し、子ども達への福祉教育の視点から、防災、伝統文化、環境などの学びや体験する機会を提供でき、うるま市福祉まつりでの活動報告、SNS、YouTubeなども活用した活動報告の場を設けて子ども達が発信する機会も提供できた。福祉教育の推進に市内の多様な主体の参画によるネットワークの構築は不可欠であるため、プログラムの見直しや新たな企業、団体などとのネットワーク構築を強化していく必要がある。
-------	--

17. うるま市障がい者等基幹相談支援センター運営事業

財源：市受託事業

収入額	17,863,877円	支出額	17,863,877円	差異	0円
目的内容	「総合的・専門的な相談支援」、「地域の相談支援体制強化」、「地域移行・定着促進」「権利擁護・虐待防止」等の障がい者等が、基本的な人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活または社会生活を営むために必要な支援を行う事で、障がい者等の福祉の増進を図るとともに、障害の有無にかかわらず全ての人が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与することを目指します。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
4	事業（項目） 令和6年度より本格実施となる。前担当課より引継ぎを行いながら外部委託をした事で行政の出来なかった事などへも積極的に取り組み、SNS活用や研修会をとおして活動の啓発に取り組めた。 総合的・専門的相談支援の実人員は144名 支援方法：訪問40件 来所相談42件 同行6件 電話相談30件 メール6件 個別支援会議55件 関係機関161件 合計340件 相談支援事業所研修会計6回 地域の相談支援体制の強化 ①相談支援事業所に対する訪問等による専門的な指導・助言件数 71件 ②相談支援事業所の人材育成の支援件数 19件 ③相談支援機関との連携強化の取り組み実施回数 45件				
評価・課題	相談支援の機能について、基幹相談・委託相談(障害者相談支援事業)・計画相談それぞれの役割を明確化し、関係機関に周知、実践として進めてきたことで少しずつ新体制が定着、浸透してきた。相談支援体制強化については、相談員連絡会や研修会など相談員の希望を聞きながら実施。地域移行支援コーディネーターの役割を担う相談員の支援も引継ぎながら業務の流れを把握する事が出来た。権利擁護・虐待防止については主管課の障がい福祉課相談係と共同で研修などを実施、コア会議に参画しながら支援方針を検討した。 課題としては、相談支援機能に関して配置されている基幹相談員の経験が浅いこともあり、今後の経験値や技術の積み上げなど専門性を上げるための体制構築が必要。				

18. うるま市障がい者自立支援協議会事業

財源：市受託事業

収入額	180,442円	支出額	180,442円	差異	0円
目的内容	地域の関係者が集まり、個別の相談支援の事例を通じて明らかになった地域の課題を共有し、その課題を踏まえて、地域のサービス基盤の整備を着実に進めていくための障がい者自立支援協議会を運営し、相談支援体制の充実、ネットワークの強化、必要な社会資源開発を図るとともに、その推進のため必要に応じた専門部会の設置運営を行います。				
年度評価	5. 計画通り取り組めた 4. 見直して取り組めた 3. 現状維持 2. 取り組んだが不十分 1. 取り組めなかった				
4	事業（項目） 協議会関係者だけでなく、オブザーバー参加として市内の福祉サービス事業所への声掛けを行ったり、SNSでの周知を行い相談支援事業所へも関心を持ってもらえるような工夫を行った。				
評価・課題	自立支援協議会本会議・専門部会運営を大きな混乱なく実施し、各専門部会の目的と目標を意識し年間スケジュールに沿って、すべての部会の目標を達成する事が出来た。AIレコーダーの活用で会議録作成の時間を大幅に短縮し業務の効率化を行うことが出来た。 課題としては、自立支援協議会の資源開発機能の部分で、相談支援専門員からの『あったらいいな』がここ数年挙がって来ていない。その仕組みを新たに模索し創り上げていく事が必要。				

令和6年度 うるま市社会福祉協議会 決算一覧

事業名	収入総額	423,502,131円	支出総額	401,459,957円	差異総額	22,042,174円
1. 法人運営事業	収入額	232,625,048円	支出額	220,539,327円	差異	12,085,721円
2. 福祉センター運営事業	収入額	1,747,620円	支出額	1,747,620円	差異	0円
3. 障害者社会参加促進事業	収入額	7,850,379円	支出額	7,850,379円	差異	0円
4. ふれあいコール事業	収入額	1,147,025円	支出額	1,147,025円	差異	0円
5. 地域活動支援センター事業	収入額	39,432,970円	支出額	32,372,499円	差異	7,060,471円
6. 生きがい活動支援通所事業	収入額	18,510,800円	支出額	18,510,800円	差異	0円
7. 福祉金庫貸付事業	収入額	446,457円	支出額	94,000円	差異	352,457円
8. 生活福祉資金貸付事務事業	収入額	21,224,397円	支出額	21,221,738円	差異	2,659円
9. 権利擁護センター事業	収入額	12,234,583円	支出額	9,795,128円	差異	2,439,455円
10. 共同募金配分金事業	収入額	12,423,822円	支出額	12,423,822円	差異	0円
11. うるま市ボランティアセンター運営事業	収入額	5,583,419円	支出額	5,583,419円	差異	0円
12. うるま市生活支援体制整備事業	収入額	22,092,263円	支出額	22,092,263円	差異	0円
13. 日常生活自立支援事業	収入額	5,492,570円	支出額	5,492,570円	差異	0円
14. うるま市地域ふれあい相談支援事業	収入額	19,469,048円	支出額	19,469,048円	差異	0円
15. ちゅいしいじい事業	収入額	4,177,411円	支出額	4,076,000円	差異	101,411円
16. 地域でつくる子ども体験事業	収入額	1,000,000円	支出額	1,000,000円	差異	0円
17. うるま市障がい者等基幹相談支援センター運営事業	収入額	17,863,877円	支出額	17,863,877円	差異	0円
18. うるま市障がい者自立支援協議会事業	収入額	180,442円	支出額	180,442円	差異	0円